

り組んできました。
このような中、令和2年度にご家族とともに当町へ移住し、農業支援員として活動されてきた3名の方々が、本年度までの研修プログラムを無事終了し、農業者として新たに独立就農されましたので報告します。



令和5年1月31日
農業支援員新規就農激励会

3名のうち1名は緑丘地区で酪農家として、2名は若園地区および東川地区で、それぞれピーマン栽培を主とする施設野菜農家として第一歩を歩み始めました。現在は研修でお世話になった受入農家や地域住民の皆さまのご協力を頂きながら、精力的に生産活動に取り組まれていると聞いています。
未だ日本経済は、コロナ禍で生じた景気の低迷から脱却すること

ができず、農業を取り巻く情勢は一段と厳しさを増していますが、このたび就農された3名には将来の当町農業を牽引する担い手として、また、地域コミュニティを支えるリーダーとして成長されることを期待しています。

8 町有牧野におけるヨーネ病患畜の発生

町有牧野の町有牛の12月採取分の糞便培養の結果、1頭のヨーネ病感染が確認された旨、3月1日付けで北海道日高家畜保健衛生所から通知がありました。同日、殺処分命令及び消毒指示に基づき、町有牛1頭について殺処分を行い、飼養していた第2牛舎について清掃および消毒作業を行いましたので報告します。

令和4年度は12月に1頭の感染が確認されていますが、さらに1頭の感染確認となり、令和元年の発生から患畜牛として殺処分した町有牛は合計で14頭となりました。町有牧野のヨーネ病発生は令和元年からありますが、約4年が経過し、今後3年間、清浄化に時間を要することになります。

清浄化が見通せない状況の中、令和5年度からは、過去のヨーネ病感染牛の考察を行った上で、まずは、感染リスクの高い繁殖牛6

頭を廃用牛として処分し、令和10年までに清浄化が図れるよう、町有牛事業の在り方についても検討を加えるとともに、抜本的な清浄化対策について方針化する時期であるとも考えていますが、今後も引き続き、家畜保健衛生所および獣医師の専門的な指導を仰ぎながら、日頃からの基本となる清浄化対策を図りながら、信頼される牧野運営に努めていきます。

9 2月1日の新冠町簡易水道(旧第一地区)の漏水事故

2月1日、午前1時頃に、町簡易水道施設の字緑丘24番地1地先で、漏水事故が発生し、対象地域である「高江」、「朝日」、「緑丘」、「大富」、「万世および古岸の一部」の、272戸で断水および減水事故が発生しました。

当該施設の配水管は、平成8年度に設置したもので、管径100ミリの塩化ビニール管ですが、亀裂などの要因が疑われたため、直ちに担当職員を現場に派遣し、夜を徹した漏水箇所の特定制業を実施したところでした。

しかし、午前4時30分の時点で、漏水箇所が特定できず、区域内で断水や減水の現象が確認され、生活や営農への影響が回避できないと判断し、職員を招集の上、対象

地域の皆さんへのチラシ配布や、SNSを活用した周知を実施させていただくとともに、教育委員会に対し、朝日小学校の対応について検討を指示しました。

加えて、新ひだか町に支援要請を行うなどして、給水用のポリタンクを可能な限り確保した上で、日高中部消防組合の給水タンク車2台を配備し、対象地域に向けた水の個別配布を行うとともに、午後2時から「高江地区」、「朝日地区」、「緑丘地区」、「万世地区」の4力所に給水所を設置して給水対応させていたところでした。

復旧作業に関しては、午後1時頃に漏水箇所が特定できたことで、午後3時40分には復旧作業が完了し、午後5時15分、全区域での通水を確認したところでした。
事故原因は特定できていませんが、現場の状況から冬期間の凍上の影響や地盤変動による外的応力が増加し、配水管に亀裂が生じたものと推察しています。

なお、復旧に要する費用については、簡易水道事業特別会計の既定維持費予算で対応しました。

水道は、町民の日々の生活や営業活動を支える重要なインフラであり、引き続き施設の適切な維持管理に努めることで、「安心・安全・安定」を第一とした水道事業を運

営していきませんが、このたびの漏水事故にあたり、対象区域内の皆さまには、大変なご不便とご心配をお掛けいたしましたことにお詫びを申し上げます。

10 新冠町立国民健康保険診療所の医師診療体制

現在、国保診療所の医師診療体制は、常勤医師3名と多くの出張応援医師の協力を頂きながら、平日の日中においては一般患者の診察、平日夜間や休日については、救急患者の受入れを行う診療体制を構築しており、入院患者の対応なども含めてできる限りの医師体制を整えているところです。

そのような状況下において、このたび、内科医師として約9年間勤務して頂きました服部医師が一人上の都合により本年3月末をもって退職されることになりました。服部医師は、ご家族の事情から当診療所で勤務を続けることが困難となったところですが、今後さらなる手腕に大変期待を寄せていた医師であり、誠に残念と言わざるを得ません。

後任については、早期に着任して頂ける医師の確保に最大限の努力を続けていますので、今しばらくお待ちください。

なお、本年4月以降の外来診療

体制については、整形外科診療日数の拡充を図るとともに、すでに連携している医療機関や個人医師にも出張応援診療を頂くよう要請していきまして、現在、応援時期や診療日程などの調整をしている段階です。

教育長行政報告

1 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

本調査は例年同様、小学5年生、中学2年生を対象に、実技8種目に加え、児童生徒および学校、教育委員会に対する質問紙調査の内容により、4月から7月末までの期間で行っています。本年度の結果については、本年1月10日付けで、スポーツ庁から調査結果について通知があり、概要について報告します。

まず、体格に関する項目である身長・体重の状況については、いずれも全国平均と比べ、男子は、

小・中学生ともに「ほぼ同様、やや高い」状況が見られ、女子については、小・中学生ともに「やや低い、ほぼ同様」の状況が見られています。実技調査では多くの種目で改善が見られ、小学校男子は「反復横跳び」「ソフトボール投げ」等4種目で、小学校女子は「反復横とび」「立ち幅とび」など4種目で全国平均を上回る結果でありました。

また、中学校男子は「握力」「長座体前屈」等3種目で、中学校女子は「ハンドボール投げ」の1種目で、全国平均を上回る結果となっています。

一方、課題が見られた種目として小学校中学校男女共通して「上体起こし」「50m走」の2種目が、全国平均を下回る結果でした。児童生徒の意識傾向として、「運動が好き」「保健体育の授業は楽しい」という回答が全国平均より多く見られる結果となっています。毎年の調査結果において、児童生徒の体力や運動能力の状況を知ることができ、折を進めるとともに、経年的な傾向を踏まえ、各学校および町教研協保体部会において、体力向上対策を検討し、取り組んでいく予定です。

2 新冠中学校卒業生の進路希望状況

本年度の進路希望状況は、総生徒数47名のうち、進学希望者が46名、就職が1名です。

出願の内訳では、静内高校28名、静内農業高校6名、道内公立高校11名、道外私立高校1名となっており、このうち、3月1日現在で7名の合格が内定しています。

3 新冠町町外学生等応援給付金の支給結果

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、原油価格や物価高騰の影響を受けている親元を離れ頑張っている学生などを対象に、修学に対する応援と経済的負担の軽減を図ることを目的に、令和4年8月12日から支給事務を進めてきましたが、本年2月末をもって支給事務を終了しましたので、結果について報告します。

本給付金は、令和4年6月1日の基準日において、新冠町外で修学している学生で、町内に住所を有する学生など、または、基準日以前に町内に住所を有する世帯の世帯員として住民登録されていた学生などを対象者に、町において実施した「新冠町原油価格・物価高騰対応支援給付金事業」と連携し申請を受け付けました。